

「小田原の歴史」紹介の資料室「ヒストリア」

新設【神奈川県小田原市お城南通り商店会】

2015年10月30日(金曜日) 16:00



今秋オープンした歴史資料室「十字町ヒストリア」の建物と、入口に立つ「お城南通り商店会」の金子不二夫会長（神奈川県小田原市南町の同商店会扱い）

かつて多くの著名人が住んでいた地元（神奈川県小田原市南町＝旧十字町）の歴史を、写真や資料などで紹介する歴史資料室「十字町ヒストリア」が、このほどオープンした。南町の「お城南通り商店会」（金子不二夫会長）が商店会の通り沿いに新設・運営する施設で、約45平方メートルの空き店舗（元青果店）を利用したスペースには、所狭しと展示品が並んでいる。金子会長は「旧

十字町で暮らした著名人の生活も含めて、小田原の歴史がほぼすべて分かるような資料室にしていきたい」と述べており、周辺住民だけでなく、観光客にも利用してもらい、地元商店街の活性化の核にしていく考えだ。

金子会長によると、資料室開設は、レールの上の車両を人が押す「豆相（ずそう）人車鉄道」が来年（2016年）、全線開通（熱海－小田原間）して120周年を迎えることから、「何か記念のイベントをやろう」と、商店会の役員（計8人）が立ち上がったことがきっかけとのこと。昨年8月から話し合いを始め、市の担当課にも相談しながら、「人車」にこだわらず、「歴史遺産・観光資源を利用した商店街活性化策」として、3年間の「ヒストリア構想」を打ち立てた。そして、「明治、大正、昭和の小田原・十字町かいわいに居住した著名人」に沿った写真や資料・図書などを、図書館や古本屋などを回ったり、ネット検索したりして、数百点も集め、10月上旬、資料室のオープンにこぎ着けた。

金子さんによると、旧十字町に本宅か別宅、別荘を持っていた著名人は、初代総理大臣の伊藤博文、詩人・歌人の北原白秋、元総理大臣の山縣有朋、海軍中将の秋山真之、「電力王」と言われた財界人の松永安左衛門、三越呉服店（現・三越）の社長などを務めた野崎廣太、山下汽船（現・商船三井）の創業者の山下亀三郎ら。時期は、明治から大正、昭

和期にかけてで、総勢 180 人近くにも上る。これだけの著名人が小田原を選んだのは、東京とはそれほど遠くなく、避寒地として適しており、そして、「著名人同士の人のつながり」が人を呼んだ、のが理由という。

資料室では、一枚の大きな地図に各著名人（約 150 人）が住んでいた場所をプロットし、各人の写真と人物像が分かる文献なども展示している。町の変遷が分かるよう、時代ごとの古い地図（計 4 枚）も掲示しているほか、市内の主要施設や名所などを描いた百数十点の古い絵はがきも並べている。文献類は閲覧可能で、パソコンを使っての検索や調査もできる。

「著名人」をテーマにした展示は、12 月末までで、それ以降、「人車・軽便鉄道・国府津湯本馬車鉄道・小田原電気鉄道など小田原の鉄道の歴史」（2016 年 1 月から 3 月まで）、「大地震・噴火・津波・大火・空襲など小田原の災害記録」（4 月から 6 月まで）「小田原上水（早川上水）・山縣水道・荻窪用水」（7 月から 9 月まで）と、テーマを変え、3 年間かけて、資料を充実させていく。

お城南通り商店会は文字通り、小田原城の南側にある国道 1 号線沿いの商店街。箱根駅伝（正月）の往路の小田原中継所がある場所として知られている。商店会組織が誕生した 1985 年（昭和 60 年）ごろには 100 店舗近い店が会に加盟していたが、その後、大型店舗の進出、店主らの高齢化、店の移転・倒産などで、現在、24 店舗にまで減少、通り沿いには空き店舗や空き地などが目立つ。

こうした状況を踏まえて、金子さんは「若い人にもヒストリアに来て、小田原の良さを知ってもらい、これからの街をどうしていくか、を考えるきっかけにしてほしい。ヒストリアを起点にして、小田原市内を回遊する人が増えれば、再び、商店街が活気づくと思う」と話している。

「十字町ヒストリア」は土曜日と日曜日のみの開館。午前 10 時から午後 4 時まで、無料で利用できる。飲食も可能で、オリジナル焼き菓子「豆相人車鉄道サブレ」（1 枚 150 円）や各種飲み物を販売している。

(C) 時事通信社